



No.90 2020.11.18

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクス

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

“Kumamoto Education Week 2020”から見えてきたこと



「よりよい教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、広く社会と共

有し共に考える機会とする。」を開催の目的として11月8日～11月15日の1週間にわたって熊本市で開催されていた“Kumamoto Education Week 2020”が終了しました。様々な視点からのトークセッション等刺激的なメニューが用意されていましたが、コロナ禍でオンラインでの開催となりましたが、逆にオンラインだから、いろいろなセッションに参加でき、見直すこともできたことがありがたかったです。またチャットを通じてリアルタイムに参加者の反応が見られるというのも新鮮でした。そして何よりも教育関係者だけでなく、子どもや保護者を含め全国の市民の方が参加できたことによって今後の教育のあり方について共に考え、ゴールを共有するきっかけになったのではと思いました。また、情報端末が子どもたち一人1台になると、学びのスタイルだけでなく学びの仕組を変えていかなければならないということを改めてオンラインでの研修に参加したことで実感しました。

“Kumamoto Education Week 2020”の中でたくさんの実践報告がありました。共通していたのが、ESDをベースに、持続可能な社会づくりに関連した課題解決に向けた、プロジェクト型の学習でした。その代表的なのが「未来を生きる私たちに必要な力とは？」をテーマにした北部中学校生徒会の皆さんのプレゼンでした。プレゼンを見ながら新学習指導要領が目指す姿を具体的にみることができたように思いました。視聴者のチャットで「こうした学びを経験した子が入ってくる高校は・・・」という書き込みがありましたが、小学校・中学校・高校とこうした学びを繰り返しながら、つないでいくことが必要だと考

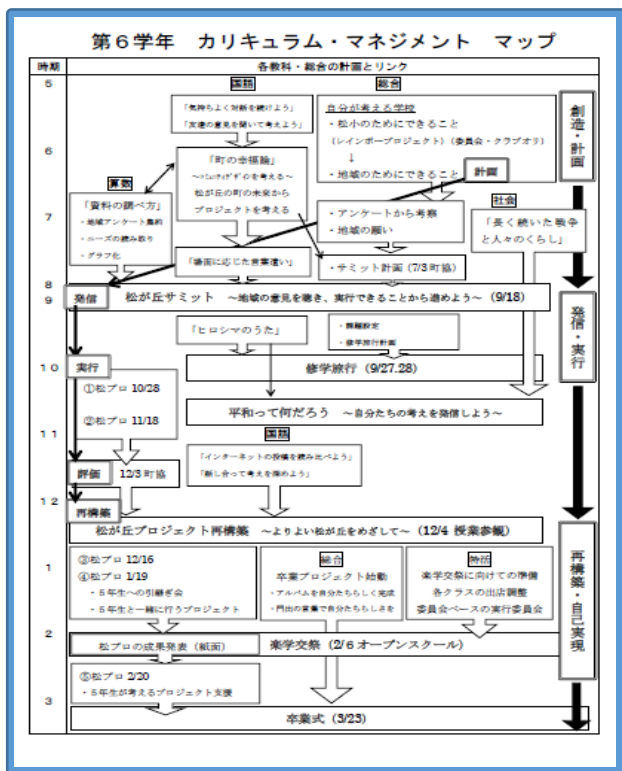


ESDとは？(文科省HP参照)

ESDはEducation for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

えさせられました。そして生徒会長が「これからは生徒が主体となって新しい学校を創っていかねばなりません・・・、これからは一人一人の心の豊かさを磨いていく教育も大切になっていく・・・、中学校はどんどんおもしろくなっています。楽しみに入学してきてください」と小学校6年生へのメッセージと共に、「これからの学校はもっと自分の声をたくさんの先生方に届け、生徒が主体となるべきです。そんな学校を私たちの手で創り上げていきましょう。みなさんにもう一度訊きます。これからの未来を生きる私たちにとって必要な力とはどんな力だと思いますか？私たちの発表を聞いて少しでもヒントにして考え続けてもらえたらうれしいです。」と全国の子どもたちへのメッセージで締めくくっています。“Kumamoto Education Week 2020”で目指すこれからの学びをこの北部中学校の子どもたちの姿で見ることができたように思います。是非、この北部中学校のプレゼンだけでもみていただけたらと思います。<https://youtu.be/jw0iyb-uNI8> (KEW2020 オープニング)

カリキュラムのデザインで



“Kumamoto Education Week 2020”でたくさん実践報告されたESDをベースに、持続可能な社会づくりに向けたプロジェクト型の学習は明石では無理なのでしょうか。全く新しいものを創り上げていかないとだめなのでしょうか。そんなヒントになる取組が明石でも始まっています。その一つが“松が丘サミット”です。自分たちに住む地域に目をむけ、地域の課題を見つめながら自分たちでできることを実際に行ってみるという取組です。“松が丘サミット”は学年の戦略として教科横断的なカリキュラム・マネジメントマップで構想されています。こうしたカリキュラム・マネジメントマップをつくることによって縦と横のつながりが見えてきます。このような戦略的な視点で教材をどのように活用していく

かを考えながらデザインしていくことが必要なのではないかと思っています。そして、こうした学びを経験した子どもたちが中学校で思いっきり活動できるのがトライやる・ウィークではと考えます。今年度はコロナ禍でトライやる・ウィークも形をかえて実施されていますが、来年度より中学校も新学習指導要領が実施されるにあたり、トライやる・ウィークを地域と連携・協働しながらESD的な持続可能な社会づくりに関連したプロジェクト型の学習にデザインし直すチャンスなのではないかと思っています。そうした中で、これからの未来を生きる自分たちにとって必要な力は何かを考えることにつながっていくのではと考えます。“Kumamoto Education Week 2020”はそんなことを考えさせてくれました。



(文責:北本)